假名讀八犬傳

十五篇

為永春水作
一雪畫國貞
画

へ13
3701
14

ベ13
3701
14

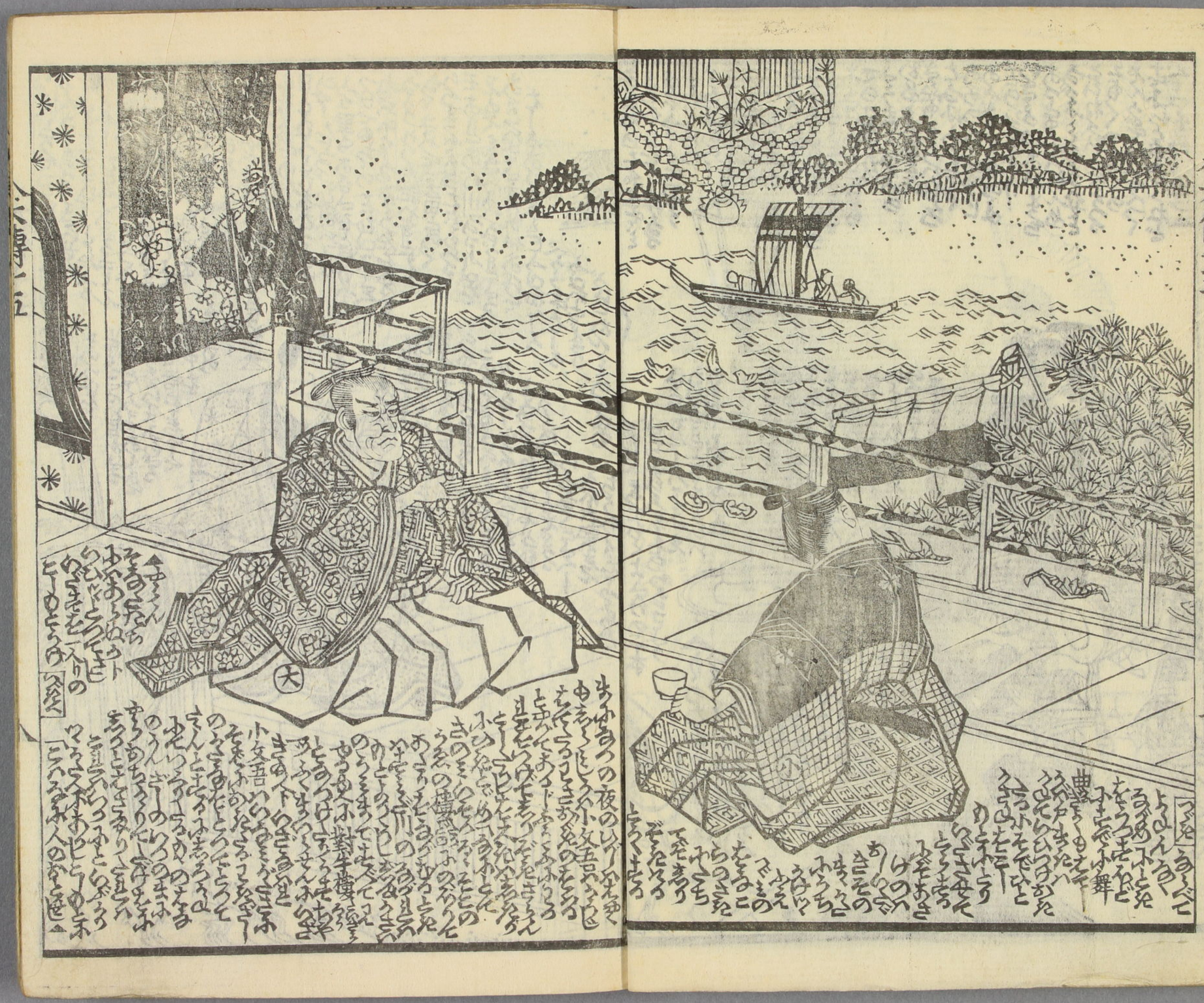
馬加
鞍子
弥吾
常尚
少女
鈴子
大記
妻
戸牧

女房
水澤
大江
屋
依
妙

小

九

二の丸
金
綱
小
戸
十
二
大

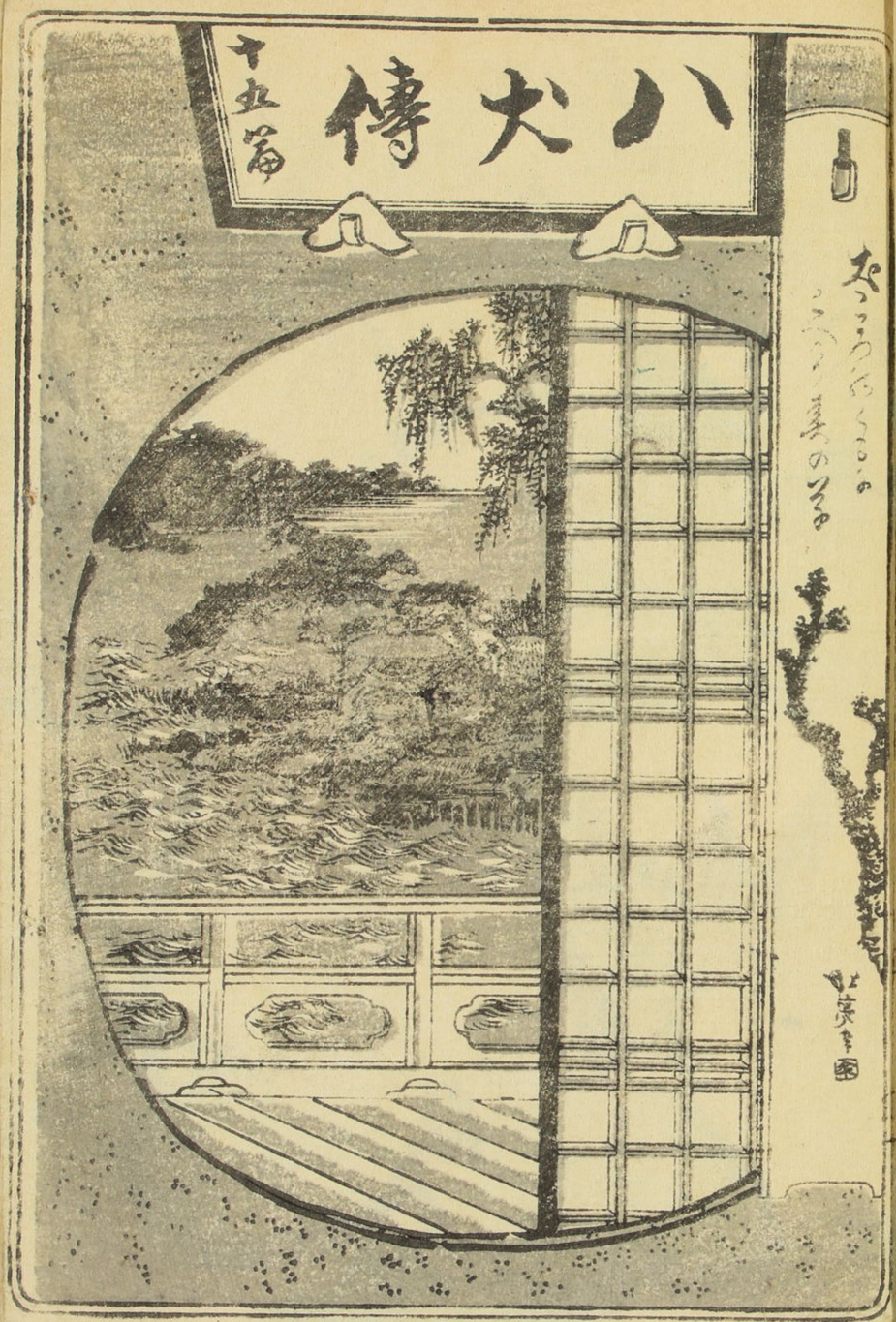


八犬傳十五

國芳画
春水作

八犬傳

十五編

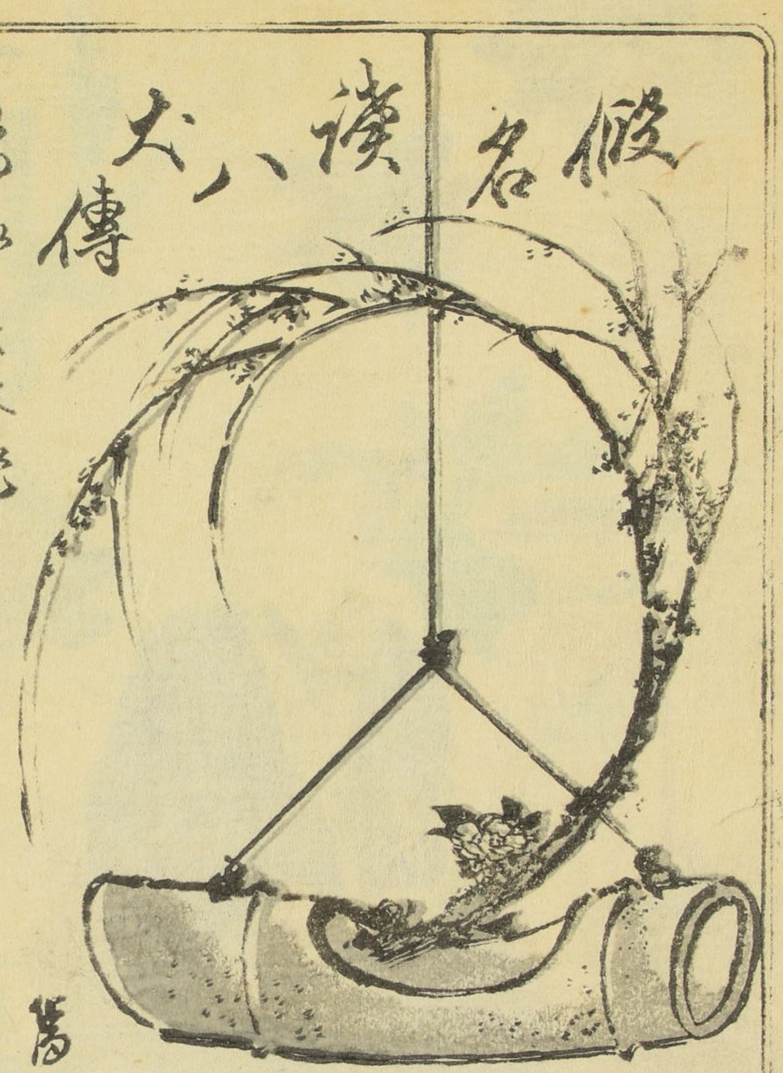


十五梅上
十五梅下

假名
横八犬傳

為永春水作
一勇斎国芳画

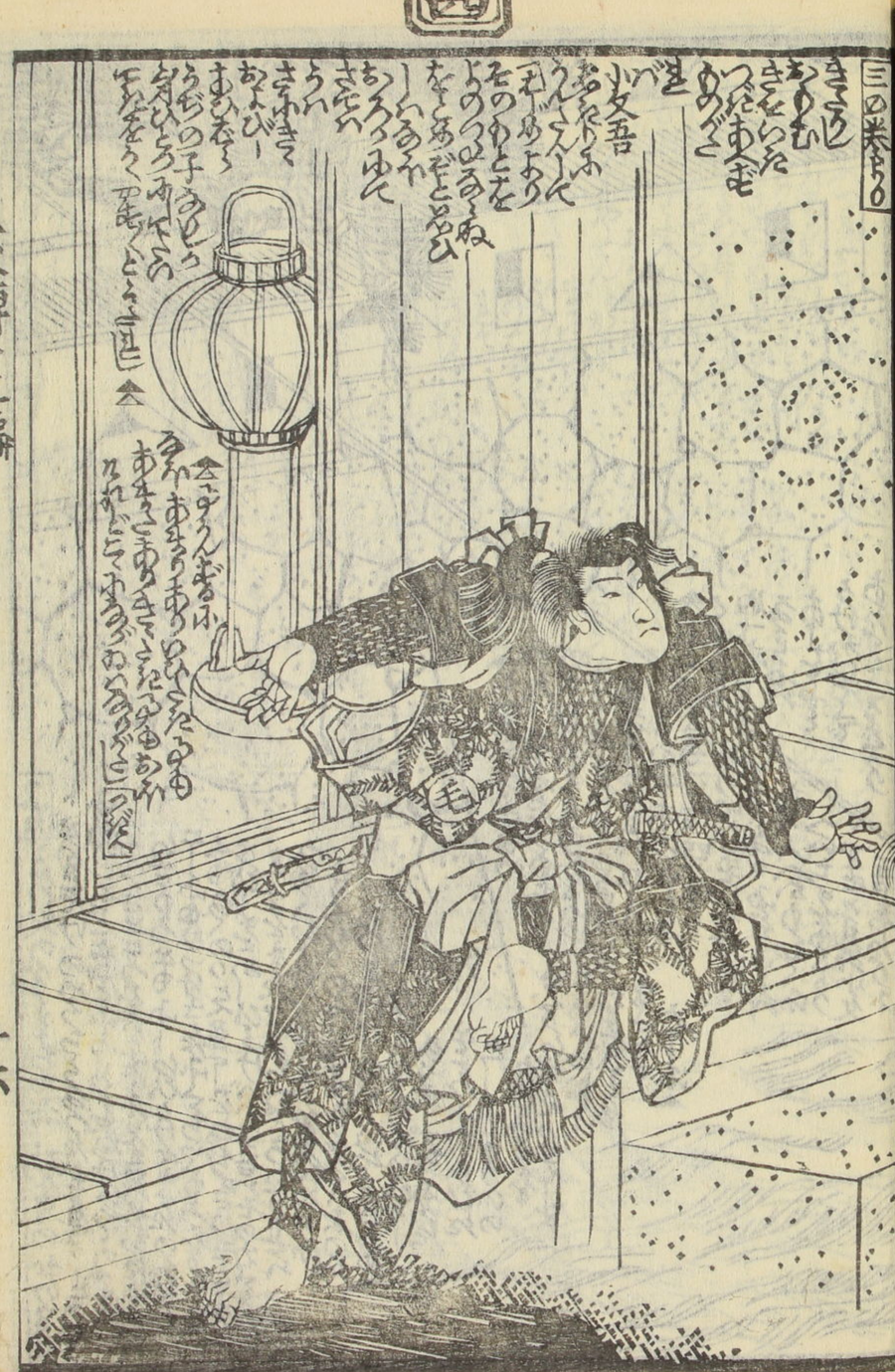
十五編下の巻

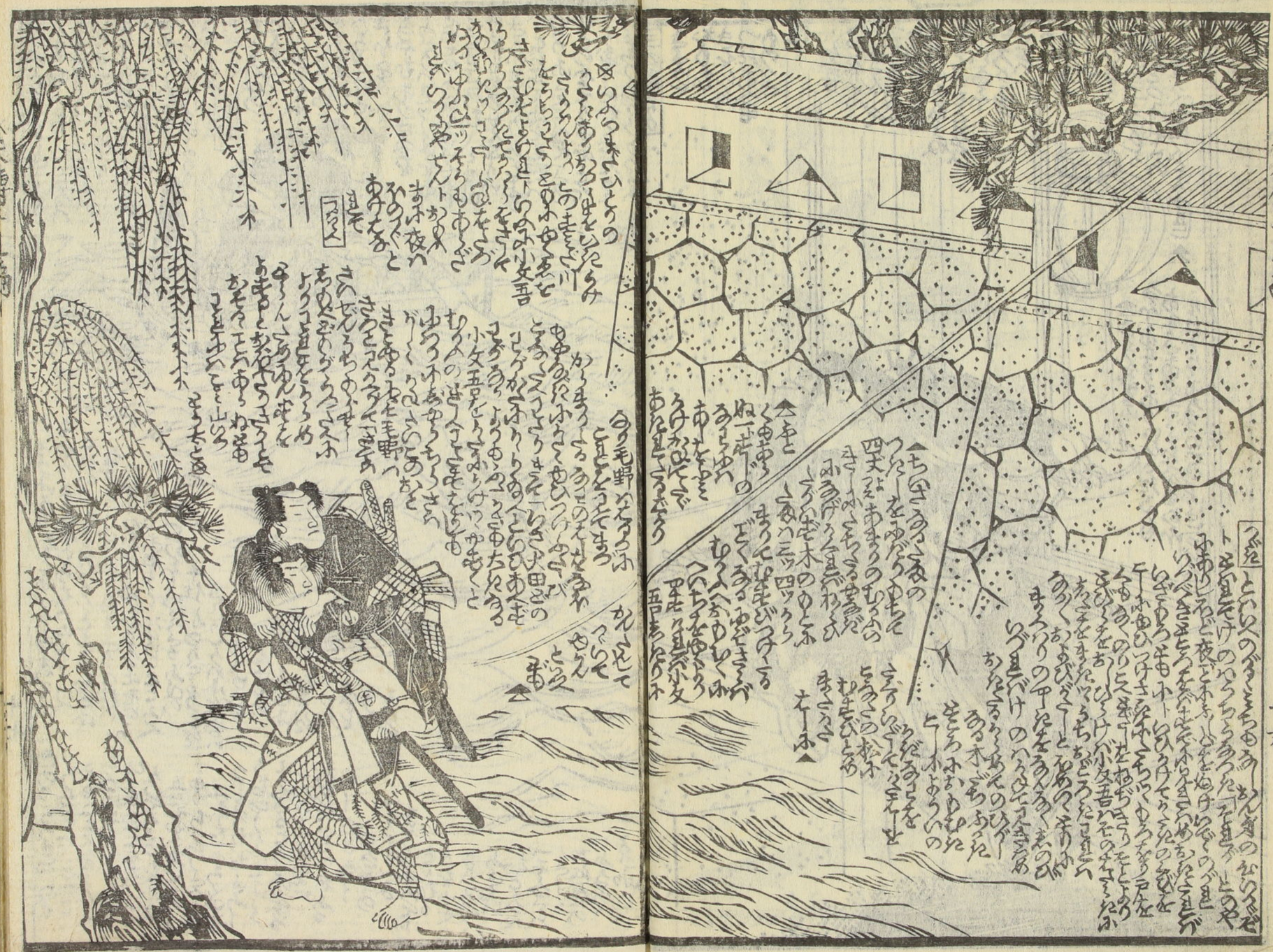


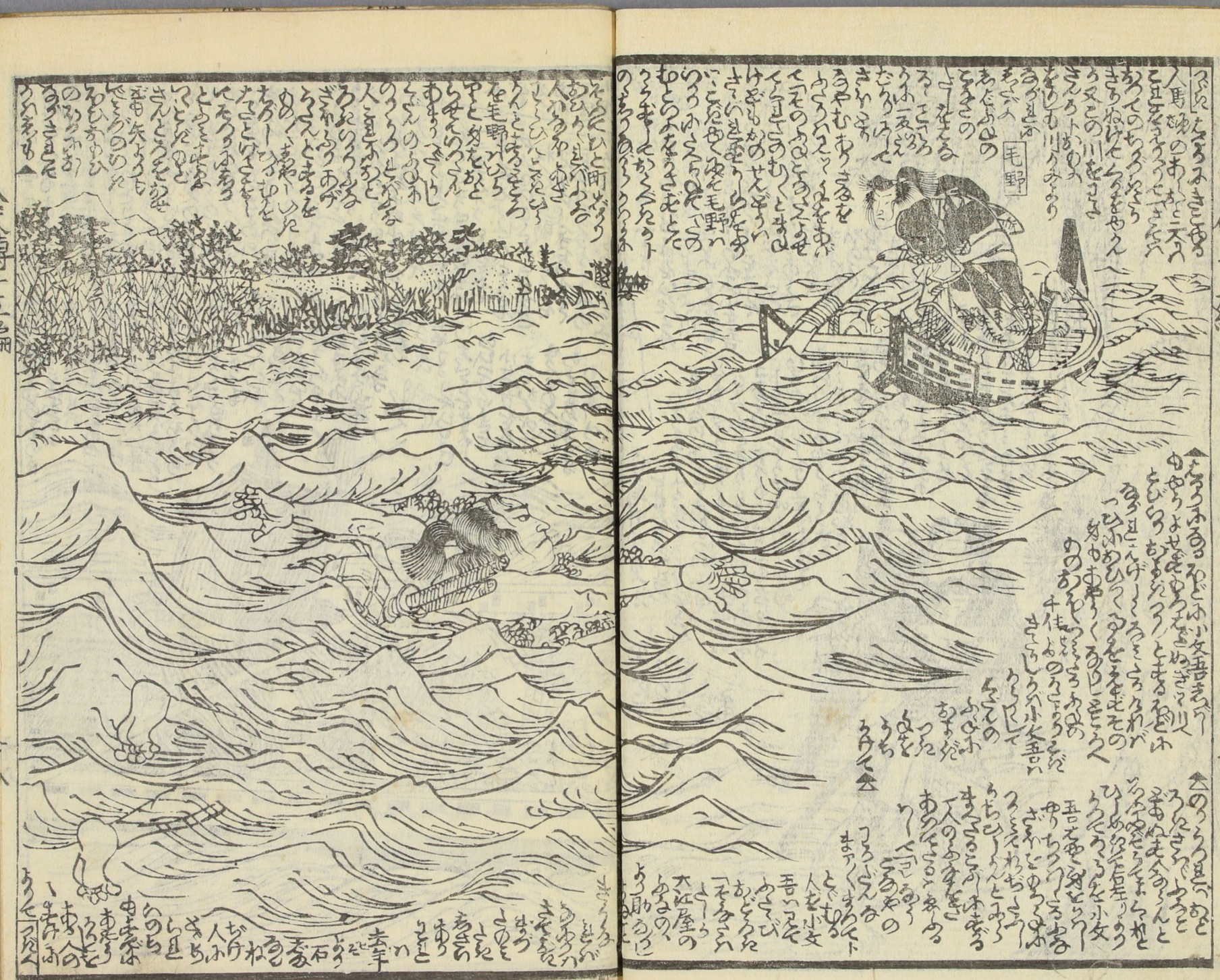
文渓堂
壽梓

犬田小文吾

小


毛




毛野

朝鮮牛肉丸 一色入夏鍋

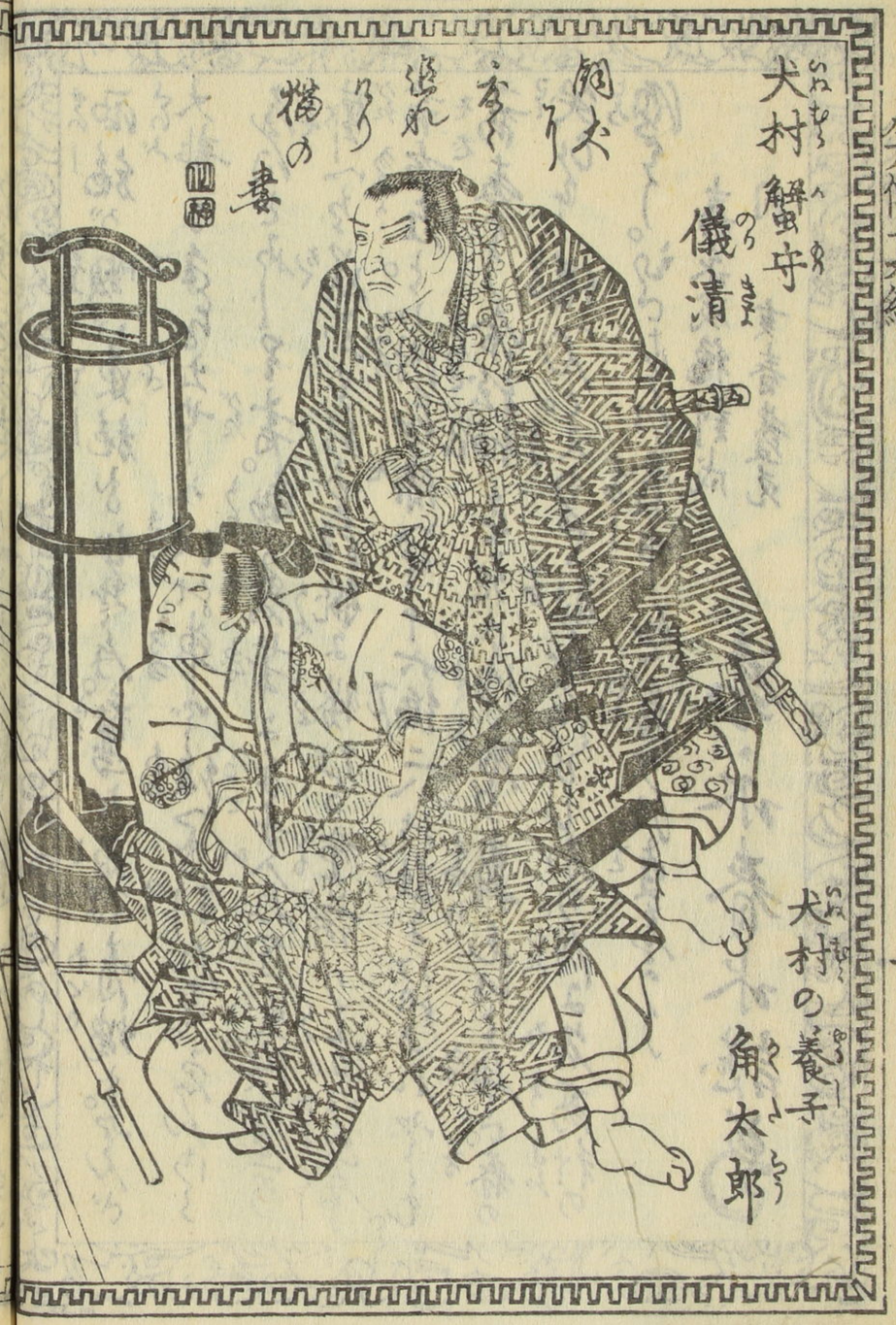
烏水春水作 一勇齋國芳画

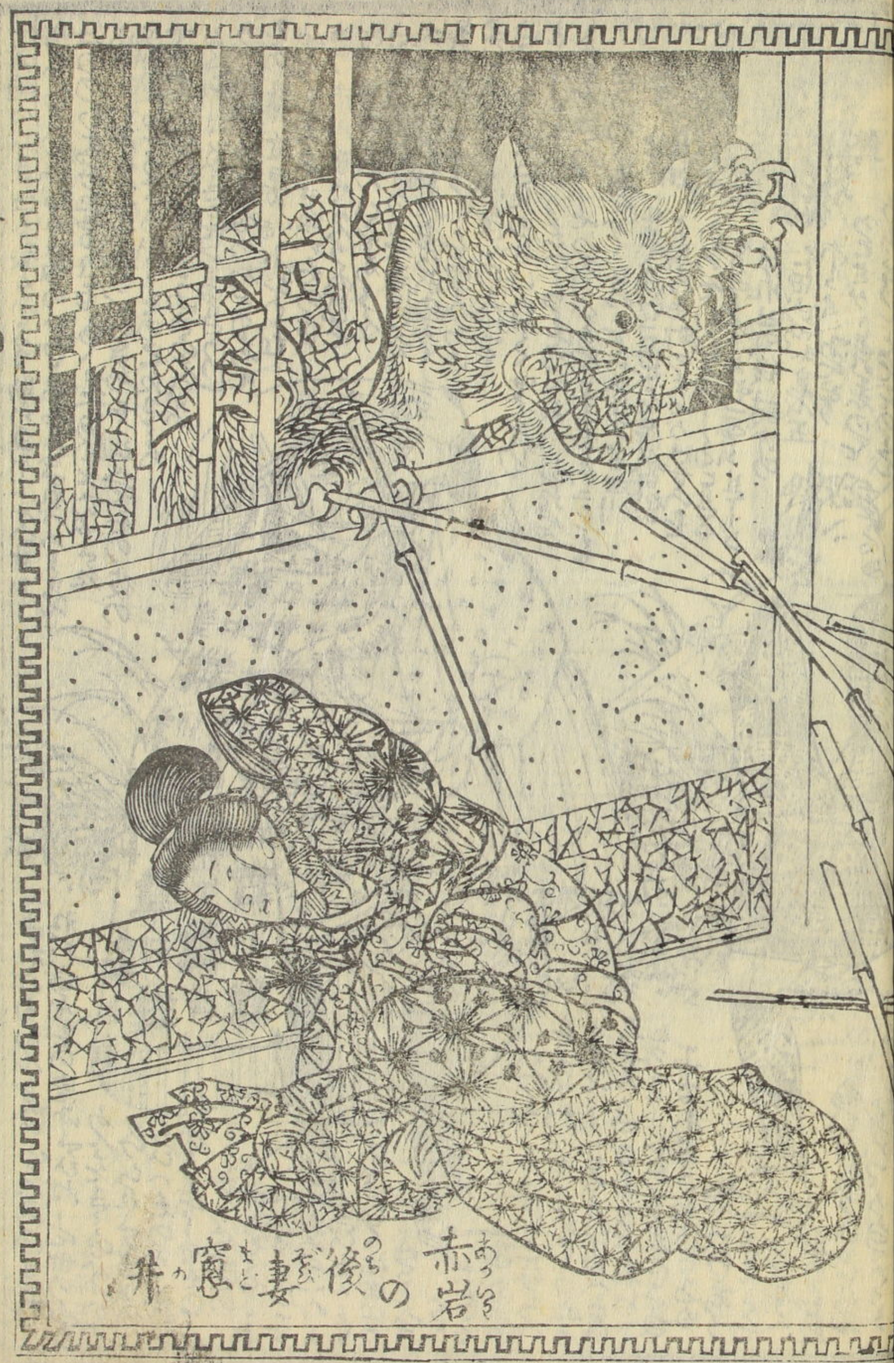
西施が顰ひ東施も効ひけり。雞鳴が忽ちに青蠅をふんだ
大郡は多年を出せりの奴は車ぐるまに引れぬ。こんにちの
為のとかしこき書。動う無葉よりも子入れて。文淑淫乃
鄙へたる遊ぶめ。の性脫み勝ちなる童荷の上言は亜字
言右左とい附を添へて十六編。二八は数よりはこれ尽しも。
蒿表とう命拯伸さを作者の奥毛はと長き。春の
矣ひて備へと又めも社をたらしふの月は名高秋の
酒とう。ひるさは愛布を急ぐ夜を変ちう。

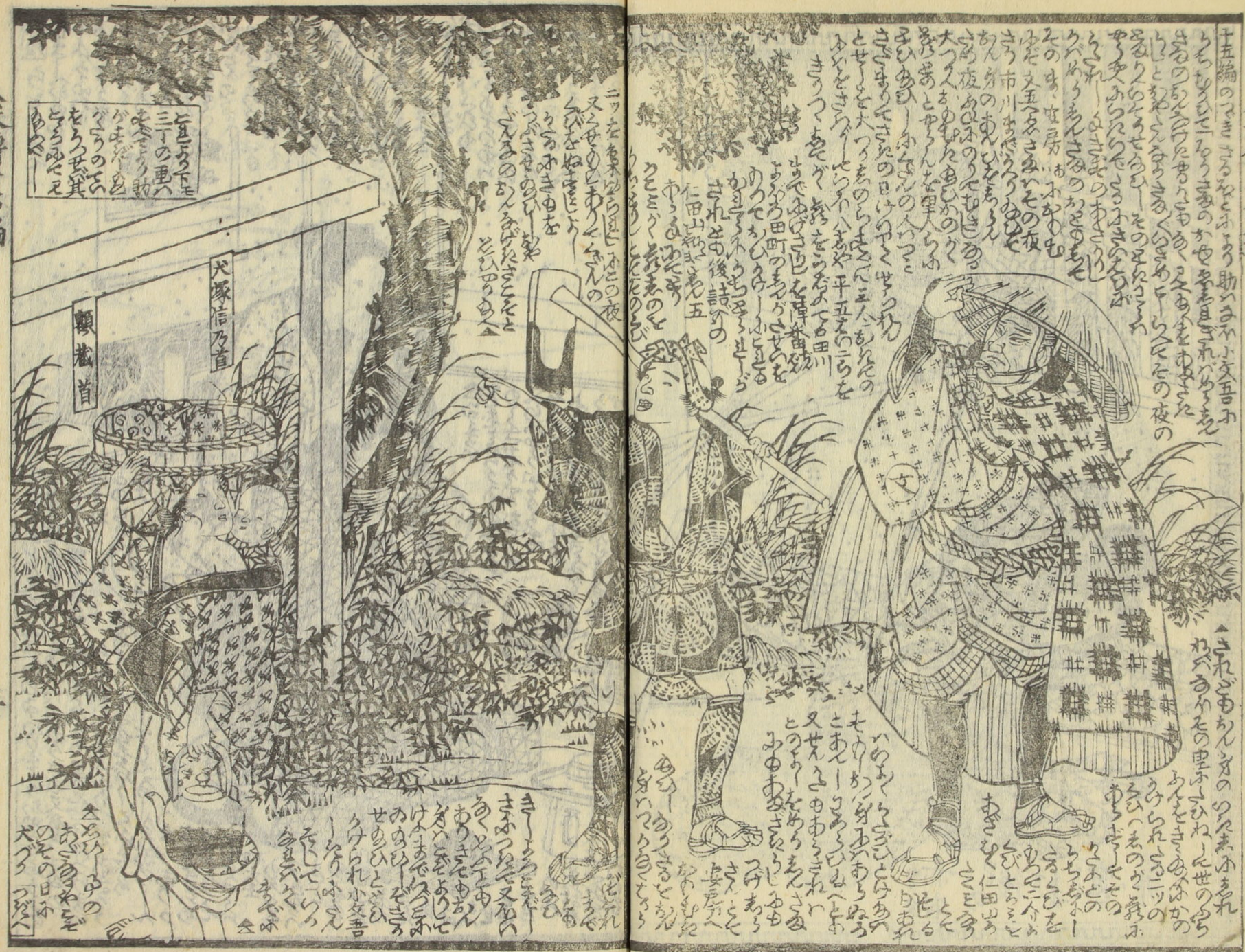
嘉永戊寅刻成

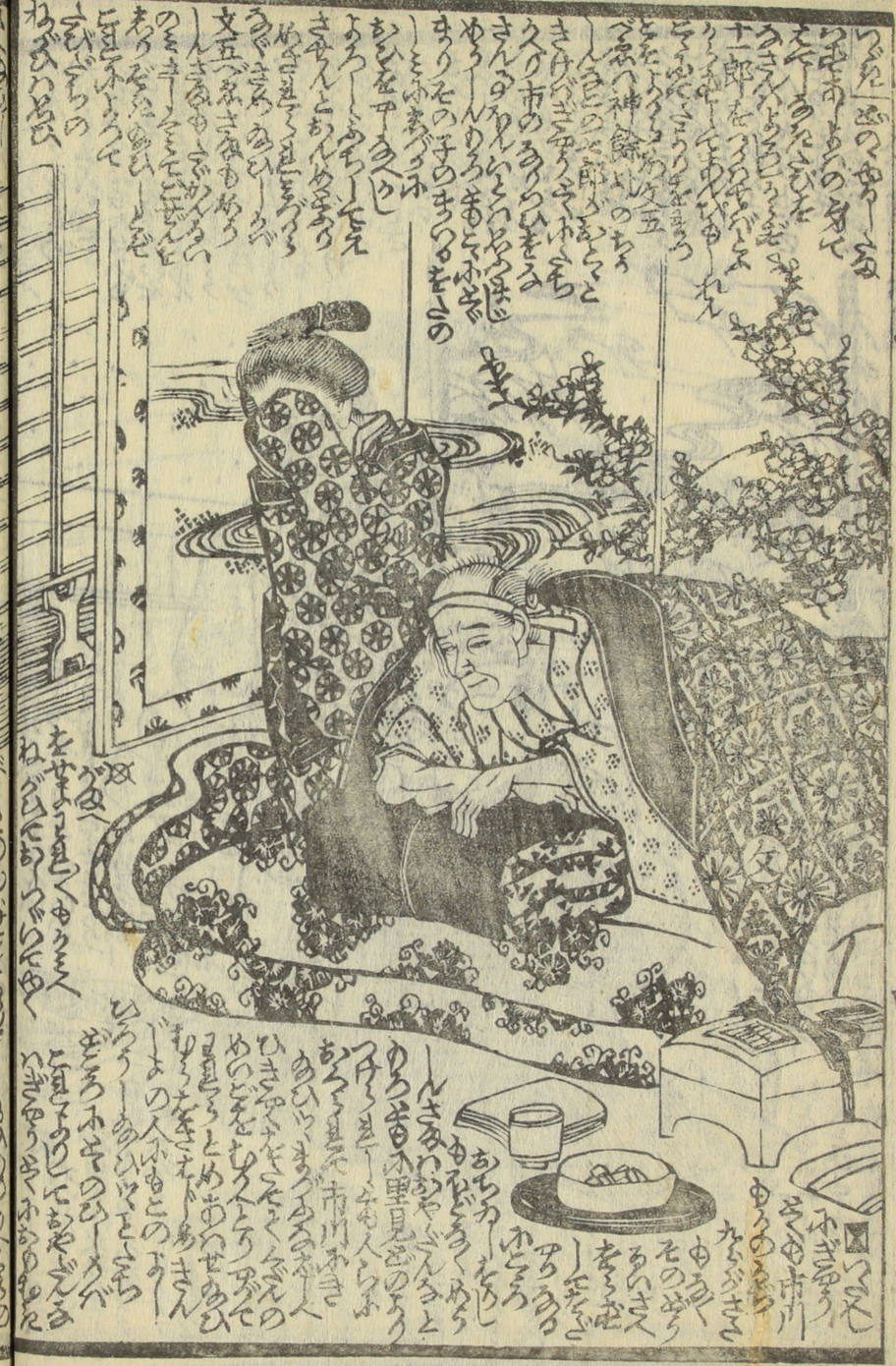
同　夏春發兆

為永春水誌


犬村蟹守儀清
角太郎
犬村の養子
猫の妻


赤岩の後妻
井の寵


犬塚信乃首
顕龍首



青面金剛

後是東行德

つづき 真壁はのこり刎草なれども秋の日
といふ里ふさかろり秋の日
ふくろくろくろくろくろ五里も六里
もやくやくやくやくやくと里ばかり
めでたやめでたやめでたやと
ちやこをはさちやこの
ちやこをはさちやこの
ちやこをはさちやこの

假名讀八犬士傳

自初編至三十七編

東都 仮名垣魯文 著
東都 歌川国芳 画
東京 仮名垣魯文 発兌

加那與美

八犬傳第

十六編上

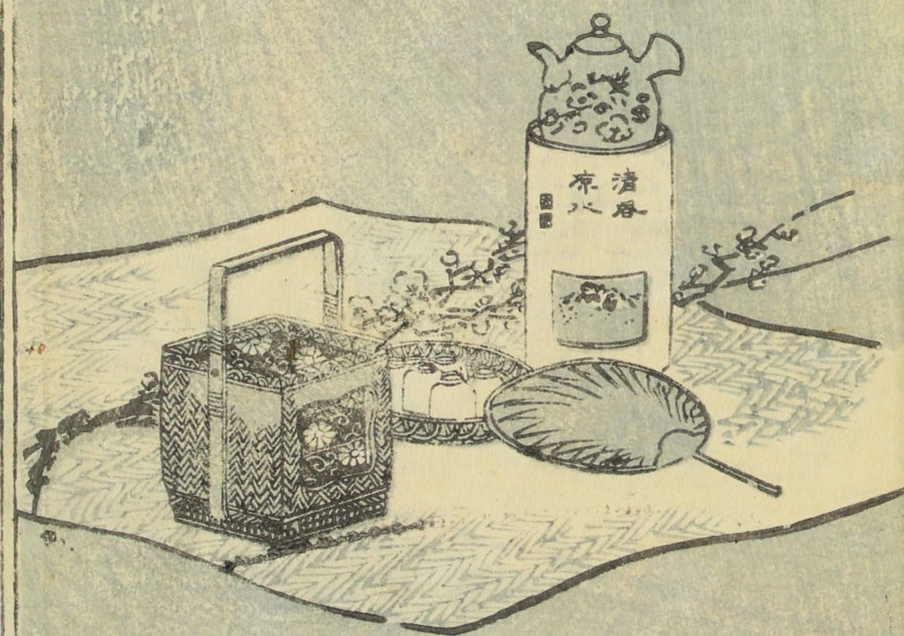
之巻

曲亭永春水作

一雲斎国芳画

嘉永五壬子春

文溪堂板



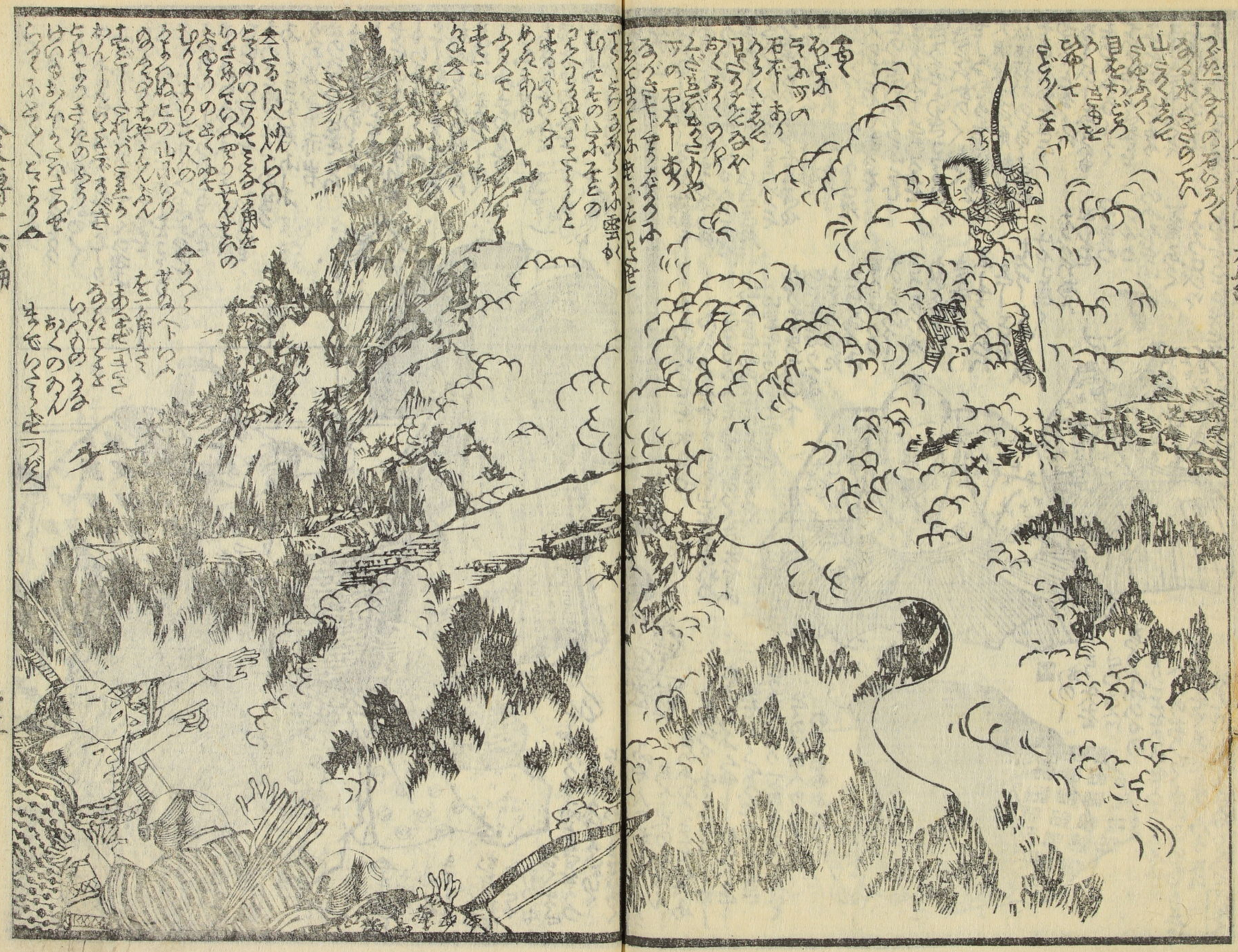
八犬傳十六編
上冊
爲永春水作
一勇齋國芳画
下冊

假名讀 八犬傳 拾六編 乾

春水作

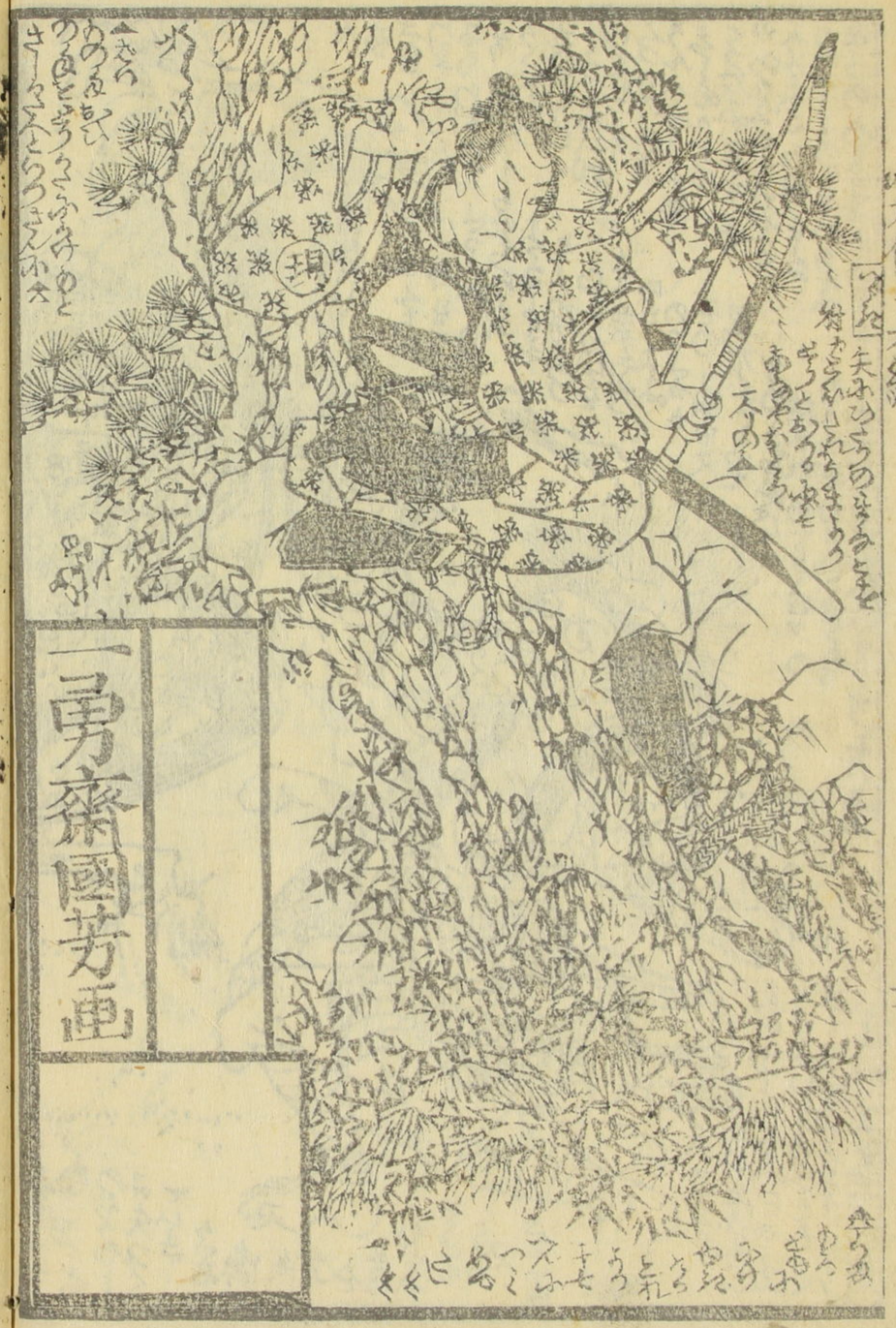
国芳画

文溪堂梓

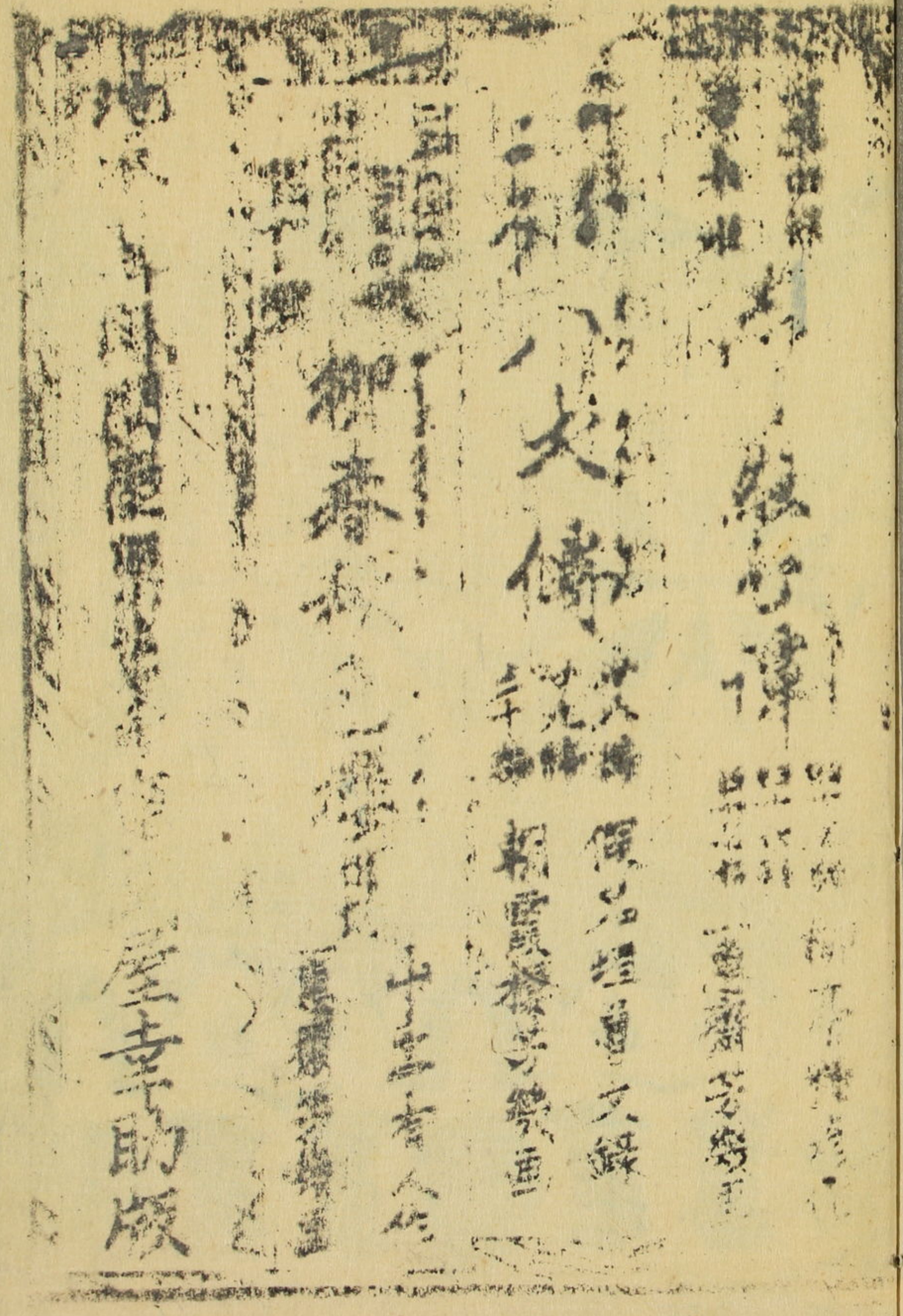


▲しんとあやまりてあ—
ゆきまたぐくこゆきところく
ちちらりしゞ石のうろを
をぶりしのまさらしひ
ゆたらのもふまくよ
なぎされども
のぐりさろくも
まくれべなとの
きれるつゞ
のごとくまさ
せんくるも
あねまろく
ふ岩
ゑん
ゑんどを

つぎさろぬきべ
一角ゆつことうち
ぞこのひ「コ亥」
ん分られつろれて
よりうの石ぞーを
うちつころをもとをを
るぶむろふまうろの
ゐんくもゐくや
ちくのゐんもつをさ
ゐくちくくんとしろ
ときありとろの
雲ゐふきふとろこの
くくきを夜のごく
あやゆもつろぞるる
きくふとこ子るらるふと
とろまるゐしーしりふ
こちをゆと
ゐんと



一勇齋國芳画



偽名續八犬傳

十六編

為永
美水作
一勇斎
國芳画
文政癸
上梓